

## 『みんなが暮らしやすい町』

小城市立小城中学校 1年 南里<sup>なんり</sup> 美空<sup>みそら</sup>

私は最近、目が見えない人が出ているドラマを見ました。そのドラマには、私たちが気付かないような目が見えないことによって起こる苦労が映されていました。特に、私が大変そうだなと思ったのは、横断歩道でのことです。進んでいいのかだめなのか分からず、いつまでも進めずにいたりしていました。世界には、目が見えない人や耳が聴こえない人、車いすに乗っている人たちなどの障害をもっている人がたくさんいることを知った私は、バリアフリーについて考えてみました。私は、一つ問題をみつけました。それは、田舎でのバリアフリーです。町では、バリアフリーが進んでいるのに、なぜ田舎でバリアフリーが進まないのでしょうか。

私は今どんな風にバリアフリーが進んでいるのか気になって、近所を散歩してみました。すると、点字ブロックが設置されているところより、ないところのほうが多いことが分かりました。他にも、用水路に落ちそうなところなど、たくさん危ないところを見つけました。日常生活では、気付かないところも障害者の方々の目線で考えると危険なところがたくさんあって、驚きました。このままだったら、障害者の方が田舎を離れざるをえないという状況になってしまいます。私は障害者の方も私たちと同じように住みたい場所に住んで、楽しい生活を送ってほしいと思っています。

私のひいばあちゃんは八十歳ごろに病気で耳が聞こえなくなってしまったそ

うです。ひいばあちゃんは、私が生まれた時には、もう耳が聞こえない状況でした。ひいばあちゃんは、私たちと会話するとき口の動きや手の動きでどんなことを話しているのか、考えていたそうです。私だったら、声が聞こえなくて会話に交ざれなくなって、もう会話することをあきらめてしまうと思います。それなのに、ひいばあちゃんは、残りの人生をあきらめずに頑張ったそうです。もちろん、耳が聞こえなくなったことで、困ることもたくさんあったと思います。でも、周りの人の協力もあって楽しい生活を送れたんだと思いました。このように、障害がある人が楽しく生活するためには、周りの環境が大きく関わっているんだと気付きました。バリアフリーが進んでいるところも、進んでいないところも、どちらにも周りの手助けが必要なんじゃないかなと考えました。なので、どこかで障がいをもっている人を見かけたら、声をかけるように頑張ろうと思いました。こんなふうに考える人が増えていって、みんなが笑顔な町がつくられてほしいです。